

# 英語

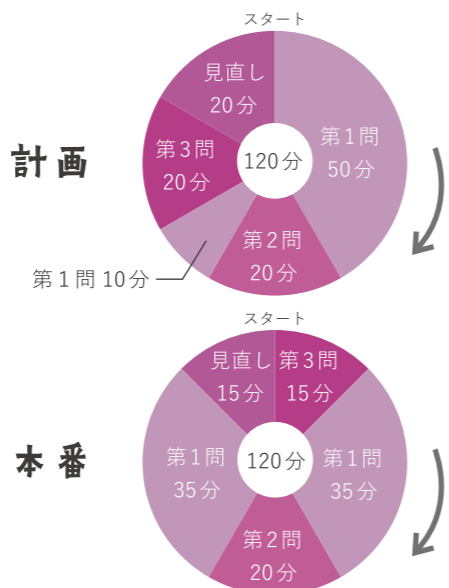
## 得意な人向け

### 二次試験対策

まず、12月以降の長文対策についてです。私は英語の過去問を解き始めた10月の時点で本文はすらすら読めていましたが、自己採点すると減点されるポイントが多くありました。そこで12月以降は自分の解答の癖（説明が言葉足らずであること、自然な訳にするため意識しすぎることなど）を把握して、それらを改善していったことで、あまり時間をかけずとも点数を上げることができました。また、今年度から選択問題が増えたため、文法や単語の復習も抜かりなくやっておきましょう。英作文の対策は共通テストが終わってから本格的に始めました。初めの方は、書きたいことが英語で出てこないことが多かったです。過去問の模範解答から使えるような表現を抜き出して覚えたり、なるべくミスをしないよう自信のある表現だけを使うように意識したりしましたが、結局苦手なままでした。そのため、日頃から頻りに英作文の練習をしておけば良かったかなと思っています。私の場合、模試や本番では焦っていきなり書きがちでしたが、構成を練ってから書き始めるとまとまりの良い文章になりました。リスニングについてですが、12月以降は共通テストのリスニング対策と並行して、英検準1級のリスニング音声聞き、英語に慣れるようにしていました。例年、標準的な難易度の問題が出題されているので、英語で差をつけたい方はここで満点を狙うべきです。受験生の皆さんは過去問演習を進めている時期かと思いますが、ただ回数を重ねるために進めるだけではなく、復習の時間もきちんと取ってほしいと思います。私は、大きく間違えた問題には印をつけ、数週間後にその問題を解き直すようにしていました。また時間配分も意識し、自分にとって最適な配分を決めておくともいいと思います。一橋の英語は数学や地歴などの問題と比べると難易度は高くありません。そのため、高得点勝負になりやすく、英語が足を引っ張ると痛手になります。しかし逆に言えば英語の配点はどの学部でも高いので、英語で差がつけられれば合格にぐっと近づくとおもいます。受験生の皆さんは安定して高得点が狙えるように試験直前まで頑張ってください。

### 時間配分例

社会学部Nさんの場合



試験が始まったらまずひととおり問題に目を通して、出題形式が大きく変わっていないかを確認しました。英作文の問題で説明を書きやすそうな写真を見つけたので英作文から解くことにし、15分ほどで終わらせました。次に長文に移りました。問題を1つ読んで本文に戻り、解答に関係がありそうなところに線を引きつつ解答を作ることでなるべく読み返す回数を少なくできるようにしていました。私の場合は諦めきれずに時間をかけてしまった問題がありましたが、手が止まった問題は潔く最後に回すように意識しましょう。結局予定より少しオーバーして、70分ほどで長文を解き終わりました。リスニングの選択問題は問題文と選択肢から答えが予想ができる問題だったので、音声が出る前に記号に丸をつけていました。ほぼ当たっていたので、余裕を持って聞くことができました。残りの15分は急いで書いた英作文と自信のない長文の問題を見直した後、誤字脱字がないか解答用紙全体を確認しました。

共通テスト対策はこちらから→

※ダウンロードには通信料がかかります  
※QRは全て同一のものです



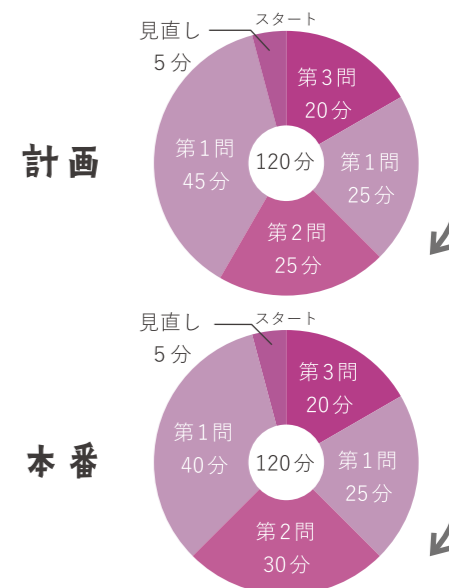
## 苦手な人向け

### 二次試験対策

一橋の英語は、難問や奇問と呼ばれるような問題はあまり出題されず、難易度が標準的で比較的解きやすい問題だといわれています。一方で、それは受験生全員に当てはまることであり、英語はどの学部でも配点が高いため、解きやすい問題でミスしてしまうと差をつけられやすいともいえます。まず1ついえることは、過去問演習を重ね、問題を解くペースを掴むことが重要であるということです。英文を正確に読み取ることが大事ですが、それに時間をかけすぎると内容を理解できているのに問題が解き終わらず、得点できないという事態に陥ります。過去問演習を通じて、自分にとって最適な時間配分や大問の解答順などを把握しておきましょう。ここで重要なのは、過去問を解きっぱなしにするのではなく、解答解説を活用しながら復習を重点的に行うことです。自分がどういう問題に時間をかけがちなのか、あるいはどういったことが不足し、間違いやすいのか、またそれはなぜで、どうすれば改善できるのかを模索しながら取り組んでみてください。自分の弱点を演習段階で見つけ克服しておくことは、本番での自信にもつながります。また、過去問演習と並行して続けてほしいのが、単語や熟語の習得と復習です。文法をどんなに理解できても、英文に使用されている単語・熟語の意味がわからなければ、内容を理解することはできません。逆にいえば、どんなに難しい文法構造を持つ文章でも、単語・熟語の意味さえわかれば大筋を掴むことはできます。一橋の二次に出てくる単語は基本的に標準レベルですので、早慶で出題されるような極端に難しい単語を無理して覚える必要はありません。標準的な語彙を定着させることは、知識量で差をつけられないためにとっても重要です。さらに、語彙の理解度はそのまま英作文を書くスピードにも直結するので、ただ見て意味がわかるだけでなく、自分で思い出して書けるようにしておくともいいと思います。英作文では無理して難しい単語や文法を使わずに標準的な語彙を工夫して用いることで、自分の伝えたいことが伝わるわかりやすい解答の作成を目指しましょう。

### 時間配分例

社会学部Rさんの場合



私は英文を読むのが遅かったので、最初に英作文を終えてから長文読解に移ることにしていました。長文に時間をかけるため、英作文を15~20分以内には書き終わるように練習し、本番もどうにか20分以内に完成させました。今回も2021年度と同様、長文1題、リスニング、英作文という構成だったので、英作文を終えた後はリスニングの5分前まで長文問題を解き、リスニング後にその残りを解きました。長文1題の形式では、途中でリスニングが入り連続して解答を続けられないので、リスニング前の段階でできる限り解き進めるようにしました。また、あとから見返すことも考え、重要な部分に印をつけておいたり、問題用紙に段落構成を書いておいたりしましょう。リスニングに予定より5分多く使ってしまったのですが、長文のテーマが比較的解しやすかったので見直しの時間を取ることができました。ただ、どんなテーマが出題されるかは年によって異なるので、本番で臨機応変に対応できるように、多くの問題に触れておくことが重要です。